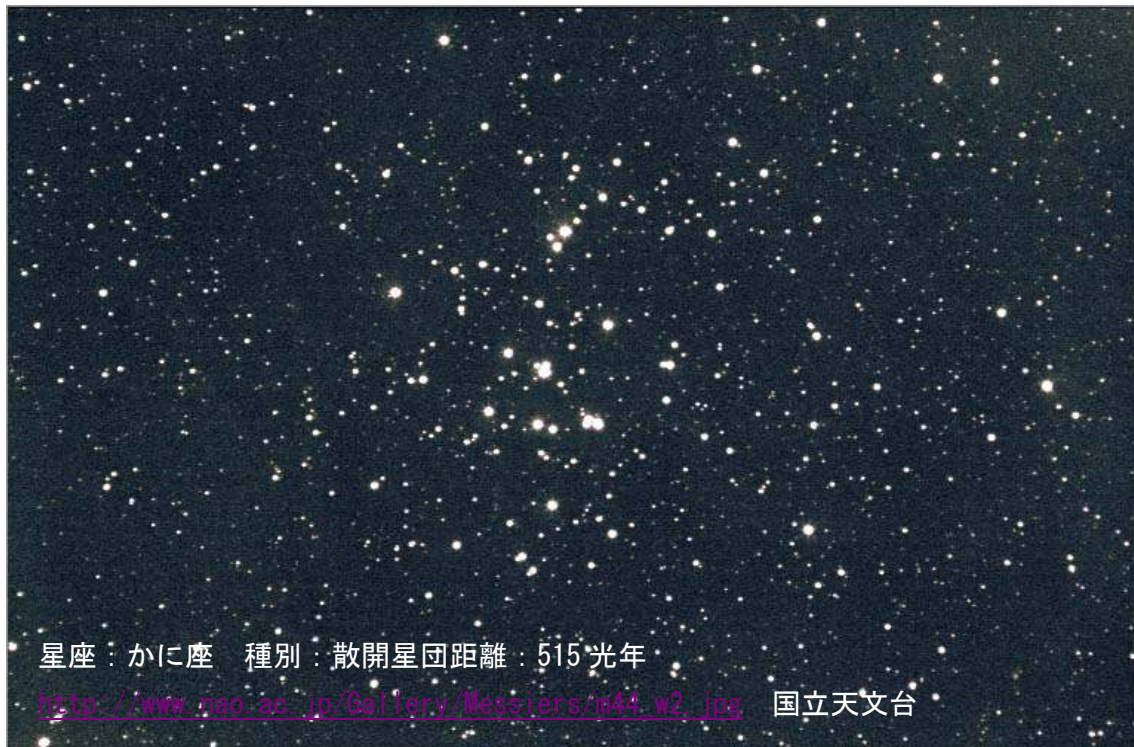


# 星をみせし...

2011. Spring Vol.13



星座：かに座 種別：散開星団 距離：515 光年

[http://www.nao.ac.jp/Gallery/Messiers/m44\\_w2.jpg](http://www.nao.ac.jp/Gallery/Messiers/m44_w2.jpg) 国立天文台

## 天の春霞

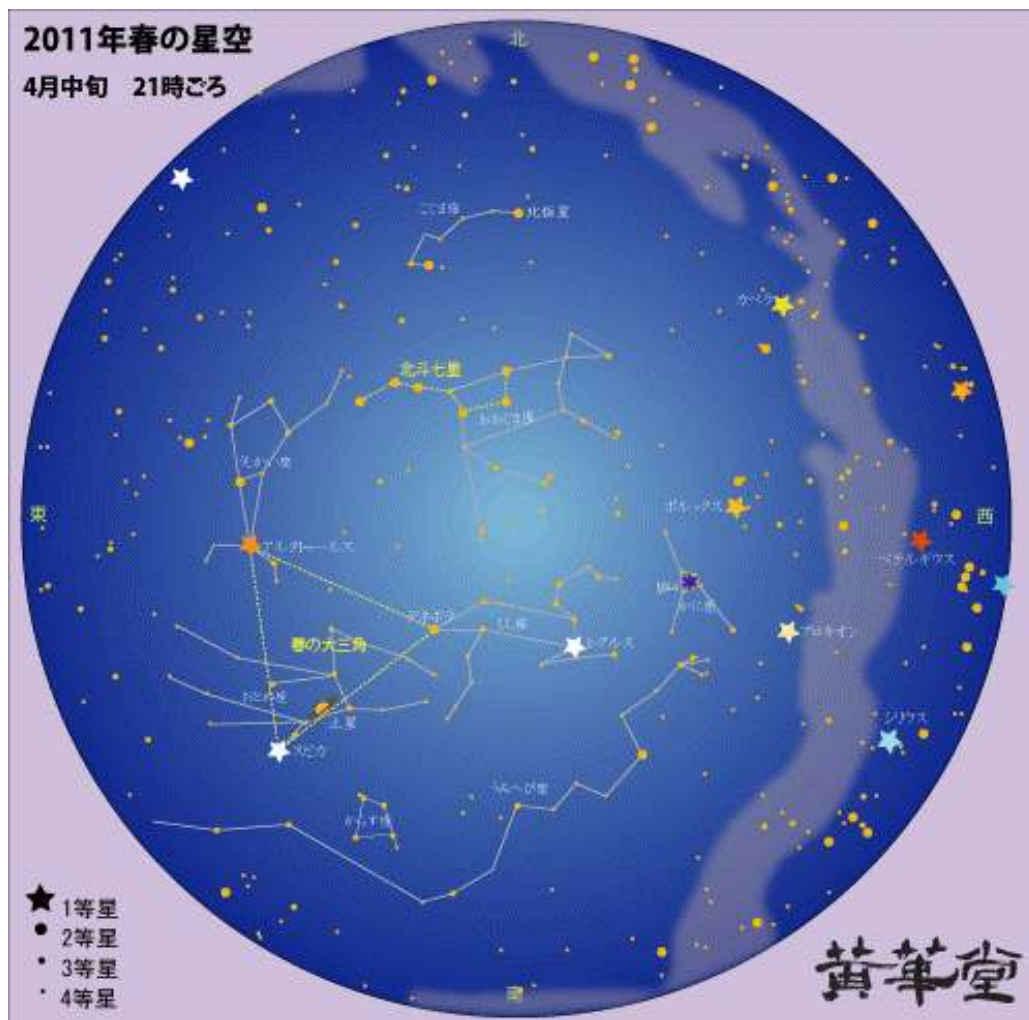
無数に散らばる光の点。これらはひとつひとつが皆、太陽のように自分で光や熱を出している恒星です。この天体はかに座のプレセペ星団。比較的若い星たちがゆるやかに集まっている、散開星団と呼ばれる天体です。

日本のある春の歌の歌詞に「霞か、雲か」という歌詞がありますが、プレセペは、まさに霞や雲のように肉眼でもボーっとその姿を見ることができます。

ヨーロッパではBeehive（ハチの巣）、中国では積屍気（死んだ人の魂が集まっている場所）に喩えられてきました。

・・・皆さんは、これを見てなにを思い浮かべますか？

## 見上げてごらん 「春の星空と星座」



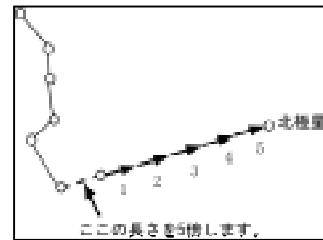
にぎやかな冬の星たちは西の空へ傾きます。東の空からは、春の星たちが昇ってきます。「？」マークを裏返しにした星の並びがしし座の目印です。しし座の東側には、おとめ座がひかえています。

そのおとめ座には、今年は黄色くて明るい星が加わっています。それが太陽系の惑星、土星です。土星はおとめ座の一等星スピカよりも少しだけ明るく輝いて見えます。スピカは白っぽい星です。色もよく見比べてみましょう。

### ☆北斗七星（おおぐま座）

北の空に7つの星がひしゃくの形に並んでいます。

これが北斗七星で、おおぐま座の一部です。北斗七星は、秋～冬にかけてはみえにくく、春～夏になると北の空で見えるようになります。北斗七星を使えば、右の図のように北極星を見つけることができます。



また、ひしゃくの持ち手から、2番目の星をよくみると、明るい星の横に、暗い星がちよこんとくっついて輝いているのがわかります。アラビアでは2つの星が分離して見えるかを兵隊の視力検査に用いていたそうです。

### ☆しし座

星占いでもおなじみの星座です。一等星のレグルスがしし座を見つける目印になります。レグルスはライオンの心臓にあたり、そこから上へ、鏡に映った「？」マーク（ナテハマーク!?) に星をたどったところが頭です。このナテハマークは、「ししの大鎌」とも呼ばれています。しし座は、11月に見られる流星群も有名で、時には1時間に数百個～数万個という大量の流れ星を見ることもできます。

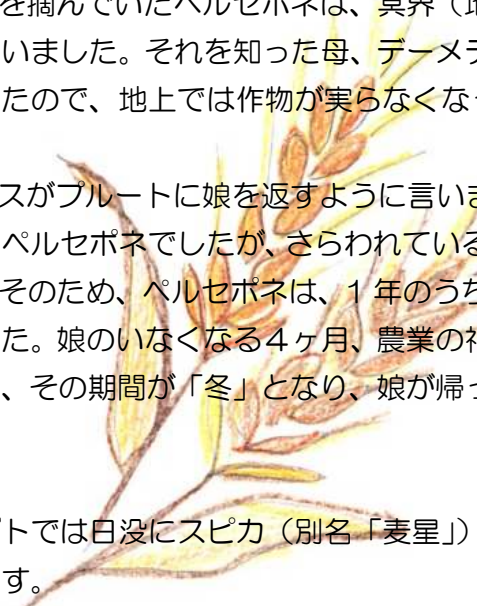
### 400文字のギリシャ神話「おとめ座」 ～「冬」のはじまり～

おとめ座は「ペルセポネ」という、農業の神デーメテルを母に持つ女神です。

ある日、野原で花を摘んでいたペルセポネは、冥界（地獄）の王ブルートによって、冥界にさらわれてしまいました。それを知った母、デーメテルは毎日泣いて暮らし、作物の面倒を見なくなったので、地上では作物が実らなくなっていました。

そこで、大神ゼウスがブルートに娘を返すように言いました。ゼウスのおかげで地上に帰れるようになったペルセポネでしたが、さらわれている間に地獄のざくろを4粒だけ食べてしまいました。そのため、ペルセポネは、1年のうち4ヶ月間は冥界で暮らさなくてはいけなくなりました。娘のいなくなる4ヶ月、農業の神が仕事をしないため、地上では作物が実らなくなり、その期間が「冬」となり、娘が帰ってくると「春」がはじまるようになりました。

実際、古代エジプトでは日没にスピカ（別名「麦星」）が出てくるのを合図に作物を作り始めていたようです。



## 楽しい天文学入門 「星の磁石と発電機」

方位磁石の針はいつも北を指すので、まるで、地球の中心に S 極は北で N 極は南を向いた強力な棒磁石が置かれているようです。

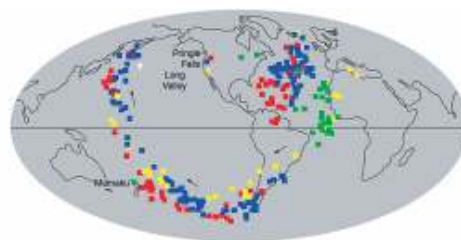
ところが、約 78 万年前の地球の磁石（地磁気）は今と反対の方向を向いていたし、地磁気はこれまでに何百回も反転してきました。

なぜ、そんな昔のことがわかるかというと、火山の溶岩の大部分は、冷えて固まる時に地磁気と同じ方向を向いた磁石になるので、溶岩を採取して調べられるからなのです。

では、どうして地磁気が生まれてきたのでしょうか？地球の中心部分の外核には、溶けた鉄があります。もし、何かの僅かな磁石の力が存在していたら、その中で鉄が流れると、電流が発生します。この電流が新たに磁石の力を生成し、小さかった地磁気を増幅させます。地球の内部では、このような発電作用が働いているのです。

地球以外に、太陽やいくつかの惑星においても、発電作用が働いていたりあるいはかつて働いていたことが推測されています。太陽の場合は、ガスの運動によって磁気を生成・増幅する発電作用で、約 11 年の活動の周期ごとに磁気が反転します。

では、なぜ反転するのでしょうか？基礎方程式に様々な工夫をして、長時間スーパーコンピュータを走らせて、ようやく反転の兆候を見ることができているのが現状です。反転の詳細は、さらに工夫をして私も含めて現在も研究中なのです。（中道 晶香）



地磁気の極は、約 22 万年間で時計回りにこんなに動いた！

(C. Laj, J. E. T. Channell, 2007 Elsevier)

## 黄華堂からのお知らせ 「今後の活動予定」

4月2日（土）、3日（日）18：30～ 新風館3階テラスにて、東日本大震災チャリティー観望会を実施します。お時間のある方はぜひお立ち寄りください。また、黄華堂では2011年度は震災復興支援の取り組みを行っていきます。

また、4月9日（土）から2011年度の星空案内人（星のソムリエ）養成講座が開講します。ご関心のある方はWebで内容をチェックしてみてください。

“子どもたちに本物の星空を！”をテーマに活動している星空ボランティアグループ

Mail : [info@oukado.org](mailto:info@oukado.org) HP : <http://www.oukado.org/>

Mixi : [http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=2816441](http://mixi.jp/view_community.pl?id=2816441)

・・・あなたも黄華堂に参加しませんか？メールでご連絡ください。

黄華堂

